

松平勘太郎様御知行所
 豆州加茂郡大見郷冷川村

医者若

尾

玄

益

申口

山本平八郎様御代官所豆州加茂郡大見郷冷川村
 百姓五郎兵衛世倅文五郎儀、此度江戸表より国元江
 私同道致候刻、右文五郎乱心仕候ニ付、其段左ニ
 申述候事

此段私儀去ル十六日豆州冷川村を出立致、江戸表ニ
 おゐて松平下総守様江、此度私帰参被仰付候ニ付、
 右御礼ニ罷下り候ニ付、同村之内百姓五郎兵衛世倅
 文五郎儀を鉄砲洲本湊町炭問屋紀伊国屋
 清八方迄炭之仕金取ニ遣候間、同道致呉候様ニ
 相頼候ニ付、則同道致、江戸下総守様御屋敷迄
 召連、夫より道中同道致候筈ニ、江戸表
 昨二十四日出立致、同夜川崎宿松屋仁兵衛と申
 者方ニ一宿致候得者、其夜より心そゞろニ相見へ候、
 然共今朝者快能方ニ相見江候間、則川崎宿より
 馬を取、神奈川宿迄私一同ニ馬ニ乗り罷通候所ニ、
 今二十五日昼四ツ半時、生麦村立場近所ニ而

右文五郎雪隠江参度由ニ而、則馬より下り
 さまに文五郎所持之脇差を自身ニ引拔、
 則拔身を引提海へ欠込候間、是者と私共
 驚、両馬士共ニ海迄押欠候得共追欠ケ兼、広キ
 海面之儀ニ而干潟二十四、五丁余、夫より海中途方
 不相知、依之村方御役人中早速御立会被下
 人数大勢舟共ニ御出被成、海中首たけ之
 所ニ而追付、私同道致漸々御引揚被下候、
 尤文五郎海中欠廻り候内、何連へ右脇差
 打捨候哉、有所相知不申候、尤双方怪我等
 無之候、依之此俛ニ而国元へ参候而者道中之程
 難計由御願申、御村方ニ而此段御察被下、御相談
 を以右文五郎在所江早速飛脚当村より差遣申候、
 勿論当御村方ニ対シ怪敷儀曾而無御座候、右乱
 心文五郎私手際ニ不及所ニ、御村方御出精故無相違
 召捕忝奉存候、尤右乱心文五郎申口、但夕助ケ
 呉、と計人々ニ申計り、前後不調成儀を
 申候、尤文五郎戌ニ三十五歳只今無難ニ

罷有候得共、一時計海中欠廻り候間、少々
 勞レ相見江申候、此上御村方へ御難題申上候
 儀無御座候、且又御檢使御願被成、私御尋
 被成候而茂、此段申上候外無御座候、勿論
 右文五郎私預り附居罷有候、別而当村より茂
 昼夜番人御附置、其上医者衆御掛ケ
 被下候ニ付、私相談を以薬用調合申合セ候、
 此度御出精之程忝存候、尤宿別段ニ
 被仰付、是又忝奉存候

右口上書を以申述候通相違無御座候、此上
 右乱心文五郎病氣付キ候ケ異変成義
 出来有之候共、御村方対し少茂御難儀
 相掛ケ申間敷候、仍而口書如件

宝曆四年
 戊五月二十五日

松平勘太郎様御知行所
 豆州加茂郡大見郷冷川村
 文五郎連シ医者若

尾 玄 益印

武州神奈川領
 生麦村
 御役人中

一、乱心文五郎申口不調候間、此者口書致
 不申候、委細私御尋之節可申述候、以上
 戊五月二十五日
 若 尾 玄 益印